

ゴミ出し困難者への対策を 収集場所の増設等支援する



みやち よこ 議員
宮地 葉子

問 誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしたいと思う。しかし高齢化が進み、ゴミ出しが困難になって困っている住民が増えている。今年の3月議会でもこの問題を質問し、行政も対策を出してくれたが、現状に追いついていないように思う。自分で出しやすくする対策は。

答 尾崎 税務・住民課長
黒潮町の現状は住民の5分の2が高齢者のみの

世帯で、その内の4分の1は高齢者一人世帯になる。その上、地域のつながりも昔より希薄化し、ゴミ出しは深刻な問題になっている。町としては区

長会へゴミステーションを増やすための上限5万円、10カ所分の補助金を提起したが、地域負担も伴うため総会等で予算を話し合う必要がある。実現は来年以降になる。

問 加えてゴミ出し時間の延長も提起したが、これも様々な状況にある地域住民の合意が必要で、時間をかけて決めることが大事であり、実現はまだ先になる。

問 助けあう「お互い様」の考え方を町全体で育てていく共助も必要で、このことは防災にもつながる

り住民が生活する上では大切だと思う。モデル地区等を設け一歩前に進めながら、各種団体やふれあいサロンなどでも提起し、現状や意見等を聞いて欲しい。今現在困っていない住民でも、ゴミ問題はいずれは自分のこと

として考えていると思うが、どうか。

答 尾崎 税務・住民課長
モデル地区は決めていくつもり。また、ふれあいサロン等でも話し合いを行い、一歩前に進めたい。

災害対策

豪雨・土砂・地震の備えは 地域の特性と住民の声で

問 9月の全町避難訓練で、浜の宮地区は人形を使って心臓マッサージを参加者全員で体験し、大好評だった。

今年も全国では豪雨、土砂災害や台風等の予想外の被害があったが、今後これらの災害は、いつでもどこでも起きる可能性があり、日頃の備えが求められる。町の対策はどうか。

また、今年の暑さは異常だったが、避難所にもなっている体育館にエア

コン設置が急がれる。国の補助金制度を利用し、早急な対応を求める。

そして、大阪北部地震では通学途中でブロック塀が倒れ、児童一人が亡くなっている。町内の学校施設で危険なブロック塀があれば、子どもたちの安全をまもるために早急な対応が必要だが、どうか。

答 徳廣 情報防災課長
豪雨、土砂災害は地震、津波のように明確な対応



心臓マッサージ訓練

が確立されておらず、地域ごとの特性を把握した上で、地域の声を聞きながら、必要となる対策を進める。今年度は、かきせ川流域をモデル地域とし、ワークショップを開催している。他の地区へも随時広げていきたい。

体育館へのエアコン設

答 藤本 教育次長

学校施設の危険なブロック塀は早急に対応したい。上川口、南郷小学校は今年中に、佐賀小学校、佐賀中学校は来年度に行きたい。